

## 式 辞

本日ここに令和4年度、東北文教大学山形城北高等学校の入学式を挙げるに当たり、ご来賓の方々をお迎えし、保護者の皆様とともに新入生の皆さんを祝福できますこと、私ども教職員にとりまして、この上ない喜びであります。

ただ今、入学を許可いたしました皆さん、入学おめでとう。

皆さんはこの2年間、新型コロナウイルス感染症が広がる中、我慢を強いられることの連続であったと思います。それだけに、本日から始まる高校生活に大きな期待と希望を抱いていることでしょう。本校としましては、高校生年代というのは様々な体験が成長へとつながるということを念頭に置きながら、我慢だけではない、「with コロナ」時代の新しい学校教育に転換する時期に来ていると考えております。

さて、本校は、大正15年、今から96年前、山形裁縫女学校の設立に始まり、その後、幾度か校名を変え、昭和23年、学制改革により山形城北女子高等学校となりました。そして、平成14年、ちょうど20年前のことになりますが、山形城北高等学校と校名を変更し男女共学としました。最初の年に入学した男子生徒は107名で2割に達しませんでした。今では男子生徒が4割を超えるまでになっております。

皆さんは、「ファーストペンギン」という言葉をご存じでしょうか。ペンギンは隊列を組んで氷上を移動したり、魚を囲い込んで捕獲したり、常に集団行動をとることで知られますが、実はペンギンの群れには、特定のリーダーがいるわけではなく、最初の1羽、つまりファーストペンギンに従うのが習性です。

最初の1羽が先陣を切って海に飛び込むと、それに続けと言わんばかりに次々に後を追うペンギンの映像を見たことがあるでしょう。海中にはシャチやオットセイなど、天敵が待ち受けているかもしれないのですが、生命の危険を顧みず、真っ先に飛び込んだペンギンは、身をもってその海が安全であると仲間を示す一方、そうすることで誰よりも先に餌にありつけるわけです。

それまで誰も挑戦していないことに挑む人のことを、この勇敢な、最初に飛び込むペンギンに喩えてファーストペンギンと呼びます。ベンチャーで成功したGAFA（Google、Apple、Facebook、Amazon）のような起業家は、まさにファーストペンギンといえます。話を本校の20年前に戻すと、女子だけの学校に男子が飛び込んでくれたおかげで、今の本校があるわけです。

そして、この4月、校名を東北文教大学山形城北高等学校と変え、新たなスタートを切ることになりました。これは、東北文教大学及び短期大学部、そして大学付属幼稚園とともに、県内唯一の総合学園である学校法人富澤学園が運営する学校として、学園内の連携・協力をより一層密にしながら、その総合力をさらに発揮することを狙いとしたものです。そして、その土台となるのが「敬愛信」という建学の精神です。

創設者である富澤カネは、『思い出のままに』と題する回顧録の中で、「富澤学園のバックボーンを何にするか真剣になって考えたのは昭和15年頃。どんなに時流が変わっても、人間として生きるため、これだけは変わるまい、と突き詰めて考え生まれたのが「敬愛信」である。人を敬い、人を

愛し、人を信じる。またそれは、人に敬われ、愛され、信じられる人間になってほしいという願いが込められている。」と述べています。

さて、ご承知のように、皆さんは新学習指導要領が始まる年の入学となりました。本校では時間をかけて検討を重ね、新しいコースとカリキュラムを準備しました。アカデミック探究、キャリア探究、スポーツ探究の普通科3コースでは、1年次はコースをオープンにしたクラス編成とし、特進科では土曜日の授業を課外講座とし、部活動に参加できる体制も整えました。これは、先の読めない不安定な時代こそ、人とのつながりの価値が高まると考えたからです。

私たちが手にするスマートフォンは、自分のために選別された情報を日々刻々と与えてくれます。ネットの閲覧や検索履歴に基づき、自分の関心に近い商品やニュースを紹介するわけです。デジタル化が進み、個人情報の収集が拡大すれば、その傾向はますます強まると予想されます。しかし、好みに合わせて各種サービスがカスタマイズされる社会では、私たちは自分の世界観に疑問を持ったり、視野を広げたりする機会を失いかねません。新しい価値観を見つけ、新しいものと出会うためには、異質なものに触れることが大切なのです。

多様な人とのつながりを持っているか、その人との対話を通じて、自分の視野を広げていけるかどうか、これからの社会を生き抜く上で重要になるでしょう。本校の学校案内には、「好きなものはみんな違う／互いに好きなものを認め合えたら／それぞれの個性は一層輝く」というフレーズがあります。中学生のときは周りが気になり、なかなか自分の個性を発揮しにくかったかと思いますが、本校では一人ひとりが自分の好みと強みを伸ばしつつ、お互いの個性を尊重できるそんな生徒を育てたいと考えています。そして、多様性を理解できるようになるには、まずもって多様なものと触れ合うことが大切です。

最後になりましたが、保護者の皆様に一言ご挨拶申し上げます。本日はお子様のご入学、誠にありがとうございます。高校の3年間は、これからの人生の方向を決定する大切な時期ではありますが、青年期の只中にいて、悩み苦しむ時期でもあります。私たち教職員は、お子様が、自らが進むべき道を自分の力で切り拓いていけるよう、全力を尽くし支援して参ります。そして、学校と家庭が相互に信頼し連携しながら、子どもたちの豊かな個性を伸ばしてあげましょう。

本日、高校生活のスタートラインに立った新入生が、たくさんの個性豊かな仲間と触れ合いながら、学びの先にある夢を叶えるための努力を続け、三年後、大きく成長し大海に飛び込んでいくことを期待し、式辞といたします。

令和4年4月8日

東北文教大学山形城北高等学校

校長 大沼 敏美